

Gallery of The Fine Art Laboratory

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶びを申し上げます。

この度、5月8日から6月3日まで、武蔵野美術大学「Gallery of The Fine Art Laboratory」にて、
對木裕里「ざらざら」展を開催いたします。是非ご高覧いただきたく、ご案内申し上げます。

對木裕里「ざらざら」

会期：2017年5月8日（月）～6月3日（土）11:00～17:00 日・祝祭日休廊

会場：Gallery of The Fine Art Laboratory

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 武蔵野美術大学2号館1階

主催：Gallery of The Fine Art Laboratory（彫刻学科研究室企画 問い合わせ先：042-342-6055）

※5月11日（木）14:40より2号館202にてアーティストトーク、18:00よりオープニングパーティーを行います。

【作家略歴】

對木裕里／Yuri Tsuiki

1987年神奈川県箱根町出身

2009年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業

2011年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

「ざらざら」

滑らかに見えます、そう感じますが、本当はざらざらしています。

視線の上げ下げによってものの大きさは変わり、

もの出し入れによって地球が回る。

じゃがいもは私の心をざらざらさせました。

これらの行為は滑らかなこの世界へのわたしの抵抗です。



<主な展覧会歴>

個展

2014年「分け入って、分け入って」古書まどそら堂（東京）

2015年「左みずうみ」Alainisitheonlyone（東京）

グループ展

2007年「koshiki art project」（鹿児島 甕島）

2014年「面白い技術」清閑亭（神奈川）

「第4回新鋭作家展“本の間”」川口市立アートギャラリー・アトリア（埼玉）

2016年「第11回大黒屋現代アート公募展」板室温泉大黒屋（栃木）

「ここにもアートかわぐち」川口市キュポ・ラ（埼玉）

「Identity XII - Memorandum on Sublime」nichido contemporary art（東京）

ALL NIGHT HAPS 2016 後期

「私がしゃべりすぎるから/私がしゃべりすぎないために」HAPS（京都）

2017年「Showcase Gallery」横浜市民ギャラリーあざみ野エントランスロビー（神奈川）

「群馬青年ビエンナーレ 2017」群馬県立近代美術館（群馬）

【展覧会に寄せて】

「天地が無用」

恥ずかしい話ですが、私は「天地無用」とは上も下もないものだと、結構な大人になるまで信じていました。もちろんご承知の通り事実は全く逆で「ひっくり返すな」という意味ですが、こんな間違いを犯してしまうのも、もしかしたらこの4文字熟語の佇まいが上も下もないような顔をしているのではないかとも思います。對木裕里の作品にしばしば現れるじゃがいもも、土から芽を出す時には「天地無用」だけれど、空中にある時は上も下もない物体かもしれません。

この見かけのキャラクターとは正反対の本質、あるいは異なる解釈が、思いもよらないところから顔を見せる性質は對木裕里の作品にもうかがうことができるでしょう。それは空間に描かれたドローイングのようなものに見えます。そしてそれは手で作られたものです。近年よく見かけるいわゆる既製品を使用した表現ではありません。それは決して巧みに無駄なく表現されたものではなく、むしろ作るのが嫌いなのではないかと思えるような佇まいをしています。実はそのめんどくさそうな手つきが、見ている私たちの視線とシンクロし、時には拮抗しながら独特な時間を作り出しているのではないのでしょうか。

手でかたちを作る、ということは面倒な手順を強いられることでもあり、また時間もかかります。彫刻家はよく「素材と対峙する」ということを言いますが、実はそれは惰性で物を作っていることの免罪符にもなるのではないのでしょうか。むしろ作業に飽きてしまうことを受け入れ、ドロップアウトして道草を食うことが、この呪縛の中から新しいものを見つける方法につながるかもしれません。この新しく現れるものを掬い取ろうという動きが、実は對木のめんどくさそうな手つきに現れているのではないかとも思えます。ドローイング的なイメージから始まりつつも、途中から制作プロセスや作品の構成原理が優位に立って主張し始める。その適度な逸脱から生まれる複雑さが、一見単純にできているような對木裕里の作品あるいはインスタレーションに現れています。それはもしかしたら彫刻と呼ぶよりも、彫刻を見出す「場」と言った方が当てはまるかもしれません。

では、ごゆっくり、對木裕里の展覧会をお楽しみください。

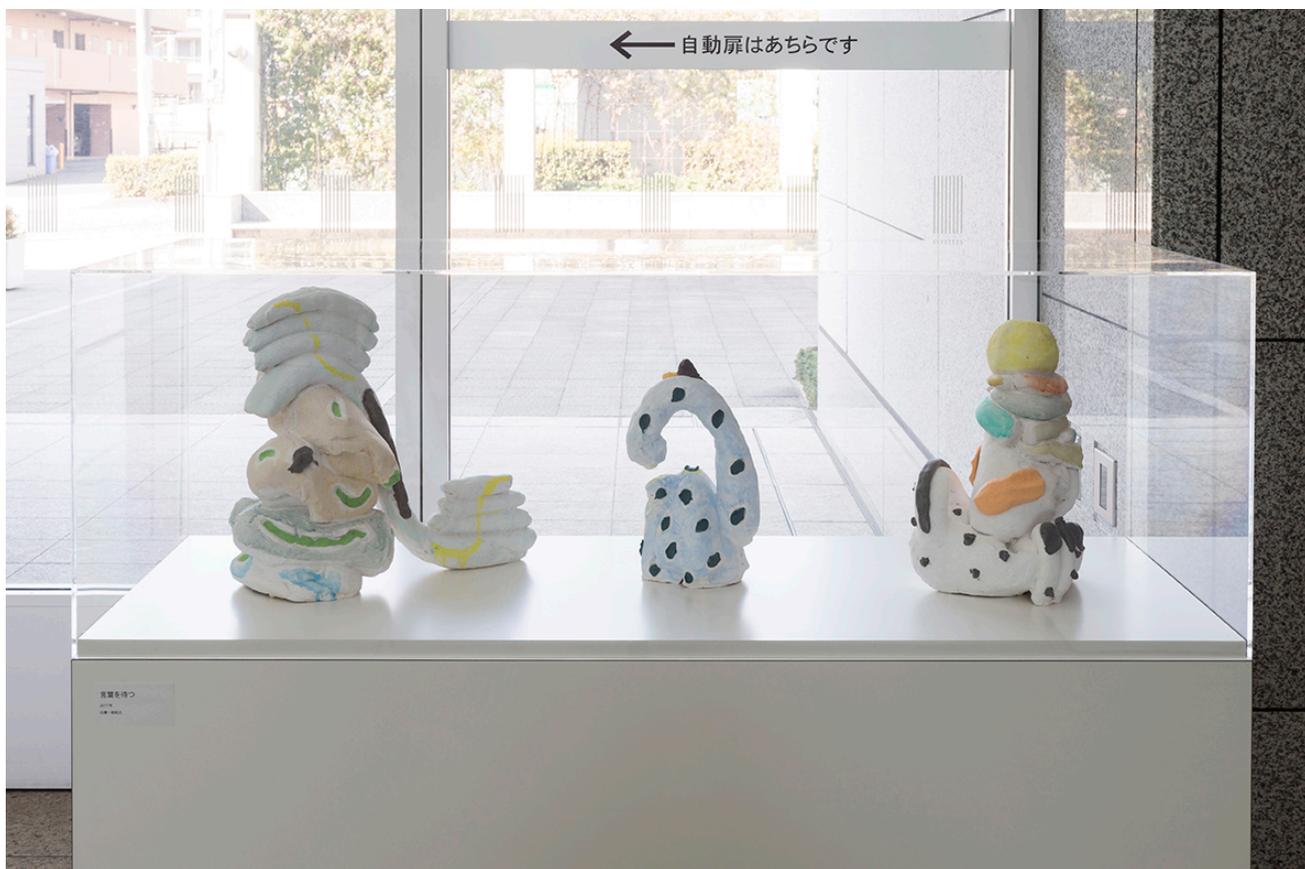
(武蔵野美術大学彫刻学科教授 伊藤 誠)



ALLNIGHT HAPS 2016 後期「私がしゃべりすぎるから／私がしゃべりすぎないために」(京都) 展示風景



犬の土地／2016年／石膏、油彩／8 x 95 x 75cm photo: Kei Okano



言葉を待つ（#2・#1・#3）／2017年／石膏、紙粘土、水彩 photo: Ken Kato



隣人／2017年／55 x 45 x 45cm／木材、シリコン、石膏、アクリル着彩 photo: Ken Kato